

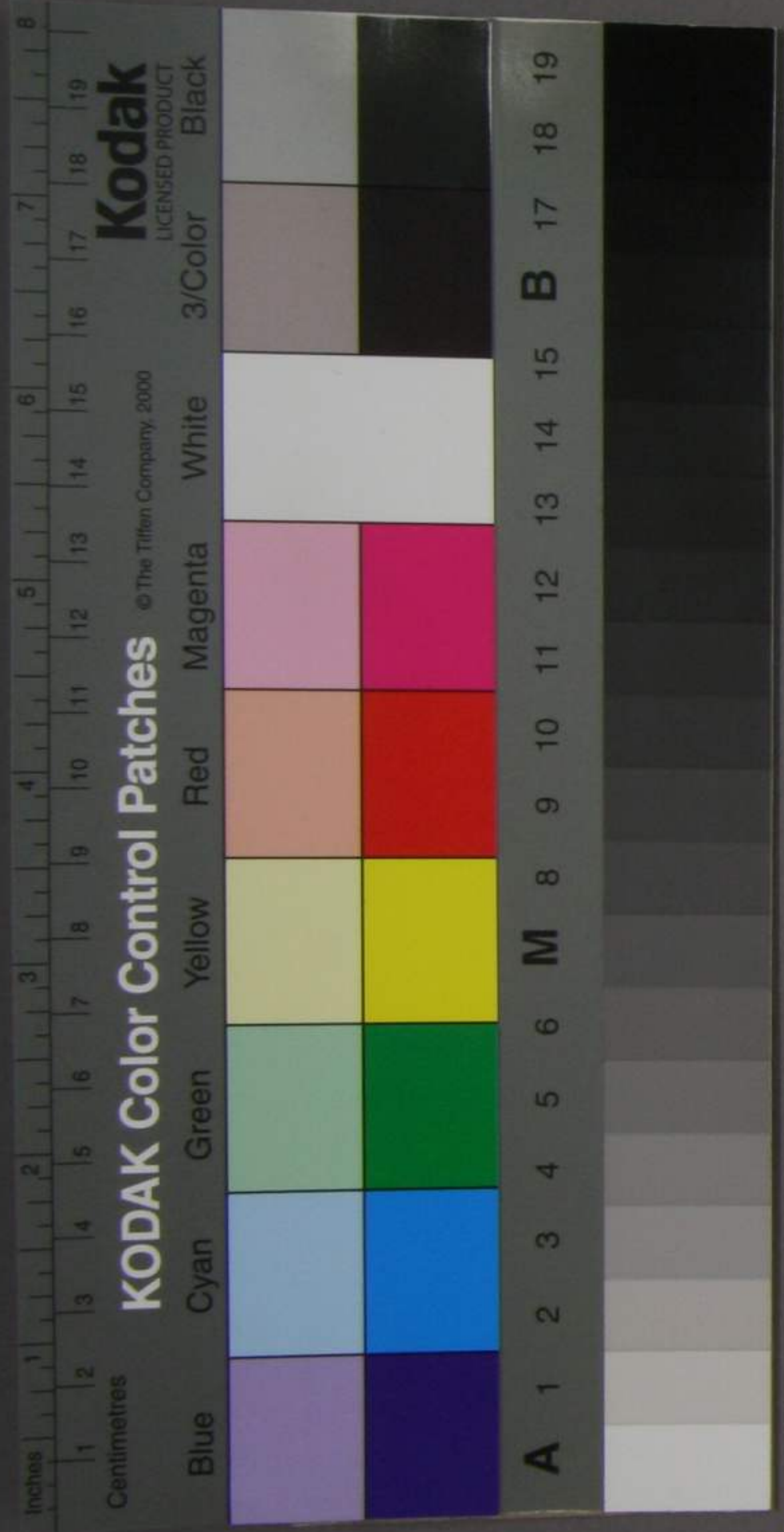
414  
A 1974



歳入増加論第二篇

嚮ニ歳入ヲ増加セサル可ラサルヲ論スルニ當テ家産  
税ヲ徴收スルノ愚説一篇ヲ進呈セリ其論説タルヤ收  
税ノ方法ニ至テ實ニ粗大ニシテ人心ノ向背時勢ノ程  
度ヲ村度セサルノ暴論ニ近シト云フノ攻撃辨駁ヲ免  
カレサルヘシト信ス何トナレハ良シマ歐米各國ノ如  
キハ家産税ナル直税ハ必ス内國税中ノ一項タルハ現  
ニ疑ヒヲ容レサル所ナリト雖モ我國現今ノ体面ニ就  
テ之ヲ論下セハ前説ノ如キハ衆議ノ排擯スル所ト為  
ル復タ再思ヲ費サスシテ知ルヘケレハナリ然リト雖  
モ歳入ヲ増加セサル可ラサルハ今日ノ形勢萬止ムヘ  
カラサルノ秋ニシテ政府ノ歳入以テ國家ノ經費ヲ支  
フルニ足ラサルノ景况アリ況ンマ當今國債ハ増加シ

大正十一年四月  
侯爵郵寄贈



政府ノ事業ハ擴張セザル可ラサルノ情状アルニ於テ  
ヲマ是ヲ以テ今又前説ニ類似セル粗大ノ愚説一篇ヲ  
進呈セントス

凡ソ世ノ文明富強ト稱シ經綸ノ道ニ老鍊ナル各國ニ  
於テハ必ス酒烟草ノ二品ヨリ徵收スル所ノ稅額ハ歲  
入ノ一大部分ヲ占ムル一人ノ知ル所ナリ然リ而シテ  
我國ニ於テモ既ニ該稅法アリト雖モ未タ歲入ノ一大  
部分ヲ占ムルニ至ラス此其故何リヤ全國三千三百万  
余ノ人民該二品ヲ消費スルノ分量比例特ニ瑣少ナル  
乎曰ク否該二品ノ元價甚タ低廉ナル故乎曰ク否該稅  
課賦ノ比例猶ホ輕微ナル乎曰ク否蓋シ全國人民ノ該  
二品ニ於ル課稅外ノ品種ヲ公費スルヲ得ルカ故ナリ  
今先ツ酒ノ一方ニ就テ之ヲ論セハ近來釀造家ニ於テ

其石高ヲ遮減スルノ勢ヒアルハ稅額ノ輕カラサルカ  
為メ人民ノ之ヲ支消スル量數ノ減サスルニ由ルト云  
フモノアラシカ此レ一理アルニ似タレトモ多クハ酒戶  
ニ於テ其釀造高ノ檢査ヲ受ルニ當テ巧ニニ奸黠詐偽  
ノ術ヲ用フルノ致ス所ナルハシ各國ノ經驗ニ據レハ  
魯細亞及ヒ米合衆國ノ如キハ酒稅ノ厚重ナル一各國  
中無比ノ高點ニ在リト云フハシ然レトモ其國內ニ支消  
スル量數ノ年々遮減スル景况アルハ未タ曾テ聞カサ  
ル所ナリ故ニ我國ノ如キモ方今稅官ノ各地方ニ巡回  
スルアルニ至ル然レトモ嚴ニ豫防ノ方法アルニ非ス  
ハ其奸計ニ陷ルヲ免カレサルハシ今一步ヲ進メ更  
ニ課稅外ノ酒類ヲ費消スル最大部分ノ公在スルモノ  
ヲ説明セン蓋シ我國ノ酒類ハ其釀造ノ方法甚タ簡易

ニシテ熟成ノ期モ亦長カラス故ニ僻陬ノ地（四國九州  
山陰山陽其他奥羽等ヲ云）ニ至テハ各郡村ノ民家各自  
ノ飲料ニ供セシカ為メ醸造スル所ノ酒量ハ實ニ鮮サ  
ナラスト聞ケリ夫レ酒ノ有税品タルハ三尺ノ童子モ  
嘗テ知ル所ナリ然ルニ之ヲ私造シ以テ各自ノ用ニ供  
スルハ決シテ為ス可カラサルノ事ナリ假令ヒ其品味  
美ナラスト為スモ其酣飲歡樂ノ興ヲ得ルニ至テハ他  
ノ税金ヲ納了セシ酒ト敢テ庭運アルナシ且人文ノ進  
歩ニ從ヒ倍々佳品ヲ醸造シテ所謂課税外ノ酒ヲ消費  
スル日々ニ多キニ至ルモ未タ知ルハカラス到底公然  
タル有税品ニシテ其之ヲ無税私造スルヲ公許シテ禁  
止々國法ナキハ理ニ於テ允當ナラサルハシ況ンヤ近  
日濁酒稅ヲ徵收スルノ裁令アルニ於テヤ既ニ旧幕

府ノ時ニ在テモ國禁トシテ各自ノ私釀ヲ許サス其禁  
令ノ行ハレサル處ハ前段ニ掲載セル如ク僻陬ノ州郡  
ノミニシテ大藩割據ノ政事ヲ施行スル地方ニ係ス今  
ヤ若シ私釀ヲ禁スルハ旧慣使用セル州郡ニ於テハ  
幾分ノ苦情ナカル可ラスト虽モ抑モ酒ハ國稅品タル  
ノミナラス又人身ノ健康ヲ妨害スルモノナリ何ソ浪  
リニ各自ノ随意ニ私造スルヲ得セシムルノ理アラシ  
マ果シテ能ク之ヲ禁スルハ政府ニ於テハ歲入ヲ増  
加シ酒戸ニ於テハ職業ノ繁盛ヲ来シ人民ニ於テハ身  
体ノ妨害ヲ減スハシ豈國家ノ公益ト云ハサル可シ乎  
茲ニ又烟草ノ一方ニ就テ之ヲ論シ將サニ其局ヲ結ハ  
ントス夫ノ烟草稅ノ僅少ナルカ如キ是亦人民ノ税金  
ヲ納了セサルモノヲ消費スルノ酒ニ比スレハ更ニ一

層ノ甚タシキヲ加フト云フヘシ今日ニ當テ全國ノ人  
民ヲシテ盡ク税金ヲ納了セシ煙草ヲ支消セシメント  
欲セハ嚴密ナル検査ト取締トヲ施為スルニ非サレハ  
能ハサルモノ、如シ然リト雖モ山脈海濱ノ各郡村ニ  
至ルマテ検査取締ノ精整ヲ要センニハ其失費ノ多キ  
ニ堪ハサル推知スハシ然ラハ則チ何等ノ方法ヲ以テ  
此ノ逃税ノ弊害ヲ矯正セント欲スル乎曰ク大ナル壓  
制規則ヲ設立スルニ如クハナシ今壓制ナル文字ヲ掲  
出スレハ其規則モ不良ナルカ如シト雖モ敢テ然ルニ  
非ス抑モ世ノ文明國ト稱スル英佛ノ如キハ該收税ノ  
為メ設立スル所ノ方則ニ就キ直接ニ之ヲ畧言セハ壓  
制東傳ク甚タシキモノ、如シ然レ氏間接ニ於テハ其  
制規タル國家ノ公益ト云フヘシ夫レ英國ハ每海關ニ

於テ輸入煙草ノ製造場ヲ設ケ收税検査其他ノ取締等  
一切ノ事務ヲ完了スルノ後ニアラサレハ之ヲ内地ニ  
發賣スルヲ許サ、ルノ成規ナリ依テ其内地ニ於テハ  
一株ノ煙草モ之ヲ樹藝スルヲ禁ス是レ一般收税ノ手  
數ヲ芟除センカ為メナリ該國狹サナリト雖モ其三島  
ノ面積ヲ總合スレハ日本全國ト伯仲ノ間ニ在リ豈烟  
草ヲ樹藝スルニ適恰スル土地ナシトセン乎壓制モ亦  
甚タシト云フハシ否壓制ニ非ス收税ノ雜費ヲ減スル  
ハ國家ノ公益タルヲ以テナリ又佛國ハ官府ニ於テ專  
賣スルノ成規ニシテ一握ノ煙草タリトモ税額ヲ逃脱  
スルヲ得ス是ニ由テ該國ノ煙草税額ハ酒類税額ニ超  
過スル數百萬「フランク」ニシテ其總額ハ貳億四千七百  
萬「フランク」ニ昇レリ蓋シ該國人民ノ酒類ヲ費消スル

量數ヲ比例スレハ其各國ニ冠絶スヘシ然ルニ酒類税  
ノ煙草税ニ及ハサル一此ノ如キハ亦以テ煙草税ノ巨  
額ナル一推シテ知ルハシ是レ壓制束縛ノ甚タシキヲ  
免レスト虽モ該專賣法ヲ止メ他ニ貳億五千万「フラン  
ク」ニ近キ歳入ヲ得ルノ路ナカルハシ是ニ由テ之ヲ觀  
レハ煙草ヲ以テ一度有税品ト為シ逃税ノ害ヲ防キ徵  
收検査等ノ雜費ヲ減シ善ク夥多ノ税金ヲ徵收セント  
要セハ必ス多クノ束縛壓制法ヲ以テスルニ非サレハ  
其目的ヲ達スルヲ得サルハ之ヲ証スルニ足レリ若シ  
其方法此ニ出スシテ検査取締ノ精密ヲ欲セハ其失費  
ニ堪ハサル言ヲ待タスシテ知ルヘシ且該商業上今日  
ノ現勢ヲ察スルニ正路ナルモノハ其家産ヲ敗リ只狡  
猾ノ徒ノ利益ヲ得ルノ景况アリ故ニ今日ニ當テ之

カ方法ヲ釐革スルニ非サレハ到底煙草税ヲ増殖スル  
ノ期ナカラン果シテ然ラハ則チ新タニ幾分ノ株式專  
賣法ヲ施行スルニ如クハナシ若シ之ヲ決行セハ逃税  
ノ虞ナク收税ノ雜費ヲ減シテ大ニ歳入ヲ増加スルヲ  
得ヘシ而シテ其高估ノ如キモ正邪ノ別ナク位置整然  
トシテ各其家業ニ従事スル一ヲ得ルニ至ラン豈國家  
ノ公益ト云ハサルヘケンヤ夫ノ方法規則ノ若キハ其  
主任者ニ於テ歐米各國ノ例規ヲ考案シ内地ノ人心風  
氣ニ依リ彼此參酌取舍セハ其良法ヲ制定スルマ必ス  
難カラサルハシ

